

ふれあいひろば

第107号

発行日 平成30年4月1日
 発行 上町地区身近なまちづくり
 推進協議会 文化部会
 事務局 上町まちづくりセンター
 (仮設事務所)
 電話 (3420) 4241
 FAX (5477) 7920

ボロ市のはなし

世田谷ボロ市のはじまりは天正六年(一五七八年)、当時関東地方を支配していた北条氏政が世田谷城主吉良氏朝の城下町である世田谷の宿場(世田谷新宿)に楽市の許可を与え、証として「掟」書が発せられた「ユリシカ」による。

楽市は市場税を一切免除して自由な行商販売を認めるもので、地域発展を意図したものです。

当時世田谷は江戸と小田原を結ぶ重要な地点として栄えており、この地に楽市の許可と共に発布された「掟」書は、市の繁栄と地域の治安の安定にも大きく影響したものである。

やがて、北条氏の滅亡により、楽市は衰退していくが、伝統の市は根強く続けられ、四四〇年以上の歴史がある。



一、市を開く日を毎月一と六のつく日(六斎市)
 一、押買狼藉、押売や乱暴行為の禁止
 一、国質郷質、債務者の同国・同郷人を人質にとることの禁止
 一、喧嘩口論、市の治安維持を乱す行為の禁止
 一、諸役一切、所場代など役一切の徴収禁止

掟

楽市「掟」書 条文解説
 ボロ市発祥の証となる楽市「掟」書は小田原城主北条氏政が世田谷の宿場(世田谷新宿)に楽市を許可し、「掟」を発したものである。

北条氏によって開かれた楽市は、そのかたちを変えながら、今も「世田谷のボロ市」として存続している。



(平成29年12月15日撮影)



ボロ市保存会は「ボロ市」が終わると、すぐ次の開催に向けた準備がスタートする。また、ボロ市保存会では縁のある小田原市や彦根市との交流も続けている。(弦巻町会 H.S.)



上町地区キャラクター「代官ホタルン」

みんなで学ぼう
上町地区の防災
 開催決定！
 6月14日(木)
 13:30~16:00
 会場：郷土資料館
 詳細は後日発行するチラシまたはHPをご覧ください。

ボロ市は400年以上も続いているのじゃ！すごいことじゃ！

ボロ市保存会の方にインタビューしました！

【名前の由来】
 元は正月用品や農機具が主流だったが、明治二十年代になって古着やぼろ布の扱いが主流となり、またぼろ布はわらじや草履に編み込む補強用として需要が多くなった。その頃の農家にとって草履、わらじ作りは現金収入となる副業の一つで、補強した草履は評判も良く材料となるボロを買求めた。その実態に合わせ、いつごろかは不明であるがボロ市と呼ばれるようになった。

ふーん。そうだったのか！

【魅力・工夫】
 平成十九年に『東京都無形民俗文化財』に指定され、ボロ市保存会を中心に地域住民により運営されている。運営には区、警察、消防などの協力も得ていて、出店許可条件が厳しく、安心で安全な「市」である。
 全国からの出店で各地域の物産も買うことができ、五年に一度の代官行列など、世田谷の歴史、江戸時代の生活の雰囲気を感じることが出来る。近隣の小中学校でも学習の一環として取り上げている。

【悩み】
 毎年多くの出店、来場者があるため、苦情や悩みもある。出店者同士のトラブル、お客さんとのトラブル、喫煙、自転車、トイレ、動物、ごみ、駐車場等々……。それらに一つずつ対応し、翌年に活かし、より安全に運営できるようにしている。食べものが中心の市が多い中、ボロ市では食べ物以外を中心にしていきたい。

(東町会 K.T)